

The idea of God seems to be the idea of something that can explain everything else, without having to be explained itself.

神の概念とは、みずから説明される必要のないまま存在するものすべてを説明できる実在という概念であるらしい。

どんなものでも正しいといえるためには根拠が必要であるが、あるもの A が正しいといえるにはその根拠 B が必要であり、また根拠 B が正しいといえるにはその根拠 C が必要であり、また根拠 C が正しいといえるにはその根拠 D が必要である…と、根拠を要求すれば無限に続くことになる「無限背進」のこと。

The trick is to keep your eyes on what's in front you, and allow justification to come to an end inside your life, and inside the lives of others to whom you are connected.

the trick とは、答えのありえない問題に拘泥せず、ありのままに自分の人生を渡ってゆくための「秘訣」のこと。keep your eyes on what's in front you は「自分の目の前にあること〔自分のなすべきこと〕〔だけに〕眼を注ぎ」。justification（「正当化」とは、自分の人生にはこれこれしかじかの意味があるなどと、人生の意味付けをおこなうこと。allow justification to come to an end 「人生の意味付けなどは終わらせる」。

（訳例）その秘訣は、眼前の自分のなすべきことに神経を集中させ、自分の人生においても、自分の関わりの他の人々の人生においても、意味付けなどをおこなうことをやめてしまうことである。

ホワイトカラーの仕事も質的にはさして違いはないだろうが、特にブルーカラーの仕事は昔に較べたらずいぶんと作業が機械化されたとはいえ、単純作業の繰り返し（単能工）の仕事が多い。昔、酔客が立錐の余地なく埋め尽くして騒いでいるジョージタウンのオイスターバーで牡蠣の殻剥きをやっていた老人が「私は 1 年 365 日、毎日、毎日、毎日、こうやって朝方まで牡蠣の殻剥きをやっている」と旅行客のわたしに光のない眼で訴えていたのが忘れられない。ここまで単調な変化のない仕事でなくとも、すべての現代人のおこなっている「仕事」とは質的にこの老人のそれと大差ない。

Mary Shelley, "The Mortal Immortal"--- 「不死の人」

the dark-eyed, dark-haired, with smiles of enchanting archness and a step like a fawn(「小悪魔のような蠱惑(こわく)的な微笑みと小鹿の跳ねるような歩き方の、黒い瞳の、黒い髪の子」)だったバーサは、this mincing, simpering, jealous old women(「ヨタヨタ歩きの、ニタニタ笑いの、焼餅ばかり焼く老婆」)へと変わっていく。

enigma 謎；不可解な人(出来事)

I fancy age advancing upon me は第五文型となっているから、age と advancing の間に age is advancing（「年齢が忍び入っている」）のネクサス（「意味上の主語・述語関係」）が潜んでいる。「時には老いが私に忍び寄っていると想像することがある」。